

知事と区市町村長との意見交換会(調布市)

令和2年10月14日(水)
15時25分～15時45分

○**行政部長** それでは、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事からお願いをいたします。

○**知事** お待たせいたしました。今日は御苦労さまでございます。

コロナとの闘い、随分長くなってまいりましたが、感染、コロナとそして社会経済の両立というウィズコロナ時代、どう描いていくのか、今もうその真ただ中でありますけど、これらについての意見交換などもさせていただきたい。

それから、構造改革をすることで進めてるわけでありますけれども、やはりコロナで随分いろんなものも変わって来ざるを得なくなっています。新しい日常とサステナブル・リカバリーをこの長期戦略の中に入れ込むという観点からも、現場のお声、調布市の状況などを伺わせていただければと思います。よろしくお願いします。

○**行政部長** それでは、長友市長、お願いいたします。

○**調布市長** それではよろしくお願いします。

冒頭の私の説明は約5分と伺っておりますので、ちょっと口早になるかもしれませんが、私どもから事前に提示をさせていただいた資料を含めて、簡略に6点申し上げたいと思っております。

一番は、予算編成の問題、これは異口同音に皆さんおっしゃってると思いますが、どれくらいの減収になるかわからないので、予算が組めない。ですから、これに関しては二つ申し上げますけども、市町村総合交付金の拡充を例年以上に、やはり強く申し上げなければいけない。

それから、二点目は減収補填債の問題で、地方財政法を改正して、その減収補填債の算定範囲を拡大するという事に関する情報収集は既に8月の市長会で都にお願いをしておりますけれども、私どもとしては、この地方財政審議会から通常国会に向けてこの改正法案が整備されると聞いておりますので、東京都には、連携を取りながら、国に対してその拡大を強く求めていただきたい。特に不交付団体においては臨時財政対策債が適用にならないので、これ(※減収補填債)に当面頼るしかないと思っております。

二番目がコロナ対策、2点です。PCRセンターの設置に関しては大変ありがとうございました、支援をいただいて心から感謝しておりますが、それから1,000万円の補填、このサポートも大変私どもで助かっております。

しかしながら、やはり、かなり想像よりも過大なお金がかかっており、調布市では4,500万円ぐらいです。なかなか財政は厳しいと思いますが、これについても是非更なる支援をお願いいたします。

それから、もう一つは、我々の近隣のところから同じ話が出たと思いますが、保健所の

問題です。多摩府中保健所 100 万人余（※管轄する地域の人口）です。これは、これ以上に人口の多い保健所はあるけども、支所が充実してるから、100 万（※いち保健所単体）というのは、実は、日本最大の人口を対象にしてる保健所だと思います。これに関しては、感染症の対応ができてないと、これはしようがないけれども、やはり機構とか、職員を充実していただきたい。それから、私どもといたしましては、100 万人を対象としてるところは、今後支所機能の検討も必要ではないかと、そのように思うところであります。

三番目が防災対策です。昨年 10 月 12 日、台風 19 号で、市制施行以来 65 年目にして初めての避難勧告、200 を超える床上・下浸水という未曾有の被害を受けました。そして、今までに水位計でありますとか、私どもは可搬式の排水ポンプの整備、これもやりましたけれども、今後、浸水状況シミュレーションを基に、さらなる排水樋管の遠隔操作とかポンプ場の新設に当たっていかなければいけないと思っておりますので、是非手厚い御支援をいただければと思っております。これが防災対策の 1 つ。

二つ目が、都立の施設についてです。避難所であるとか駐車場機能として是非使わせていただきたい、調布にもございますから。それから防災備品の充実。

三番目は、サイボウズと既に協定結んで、IT 技術を使った避難所の在り方（※状況把握）みたいなのを実証実験もう終えたところがあるんです。例えば、避難所と災害対策本部のリアルタイムの情報共有とか、QR コードで避難者に登録していただいて、混雑状況が一目で分かるように。都でも使っていただければ、都を通してほかの自治体にもということです。これに関して、もしこれを拡大するということであれば、またお金がかかるということで、御相談させていただきたいと思っております。

四点目は、多摩の振興です。一言で申し上げまして、投資、誘致のための共通データベースを作りたいと何年前から思っています。私どもは多摩川流域の自治体で、四半期に 1 回の意見交換の場を持っていて、平成 25 年からもう 30 回ぐらいやってるんです。その中で、激甚災害のときのドローン対応であるとか、それから多言語化した観光情報サイト、これはもう実現して、成果が上がってるんです。今この産業データベース構想を手がけようということで、これ都の方に御説明して、一応お話をさせていただいております。来年、できればこれを実施したい。フォーマットを統一した上で、各自治体の売りをそこに盛り込んでいくわけです。これを全国の自治体にばらまいて、東京に橋頭堡を持って業容を拡大しようという企業を多摩に引きつけよう。私は、これができたら自分で全国に売りに回ってもいいというぐらい、今、一番の課題としてやろうとしております。詳しい説明は、必要があれば、また後ほどいたします。

五点目が、長期戦略ビジョンを東京都は共有しておられて、3 つの C というのが、子供と長寿と居場所だと、これ、私どもの基本計画でも重なるものはいっぱいあります。1 つだけ申し上げますと、子ども・若者総合支援事業「ここあ」というのがあって、これは今の官房長官が以前に視察もいただいているんですけども、例えば、経済的に困難な中学生に学習支援、それから不登校等でいろいろな問題を抱えてる子供たちに相談事業とそれから居場所を提供する。これ一つ取っても、東京都の構想と連携を保たせていただけますので、

今後は是非いろいろ聞かせていただきたい。

最後がオリンピック・パラリンピックです。ラグビーの喧騒がもう本当、数年前のように感ずるような感じなんですけれども、これに関しては3つ申し上げます。1つは、このオリンピック・パラリンピックの機運をもう一回醸成しなければいけないというのは、今もう既にその次元に至ってるんだけど、なかなか手を打てない。ただ、グッズとかポスターとか、もう既に用意をする状況になってきていると思いますので、よろしく願いをしたいということでもあります。それから、私どもはコロナ対策で、ガイドラインを今、策定しておられると思うんですが、早期にということと、それからお金がかかるということ。

三番目、最後は、コミュニティライブサイトについて、井の頭恩賜公園と南大沢と調布でやると決めておられるのを、是非予定どおり実施いただきたい。私どもはもう準備を鋭意進めておりますので、是非予定どおりの実施を希望させていただきます。

ちょっと早口になりましたが、以上6点であります。

○**行政部長** 長友市長、どうもありがとうございました。それでは、知事からお願いいたします。

○**知事** コロナ対策は、もう本当に、これまでいろんな知見も重ねてきましたけれども、これからまだまだ課題はあるかと思えます。

PCRの検査体制も、これも必要な方が迅速に検査受けられるという考えの下に整備をしていくということで、今、大体1日1万件を超える体制はできてきております。また、これらの拡充、PCRセンターに市町村が支援を行う場合には、運営費、そして設備の整備費補助を行っているということで、また、これについては国にもPCRセンターについて、継続的な運営ということで要請もしているところであります。

また、情報については、週報から日報ということでお伝えをするように、頻度を高めるようにいたしております。

それから、災害時には、前に防災訓練の場がちょうど調布でございました。そして、地域と連携しながらやっておられるというお話、当時も伺ったところです。そして、調布市内の都立公園について、去年、19号の例を踏まえて、災害時の連携協力に関する基本協定を締結をして、市と協力しながら震災時の利用計画を策定、そして発災時対応の連携強化に取り組んでいるということで、まさにこの災害対策を連携してやっていくということで

それから、避難所を都立の施設をとということで、都立学校において、避難所として利用されることが多い体育館について、非構造部材の耐震化を平成28年度に完了しているわけですけれども、昨年度から3年間の計画で空調設備を設置ということで、防災機能の強化を進めているということでもあります。

災害は本当に、今回、台風14号の方、島嶼地域では災害ありましたけれど、この後まだ、まだ15号ですから。

○**調布市長** 油断できない。

○**知事** そうですね。

それから、経済の関連でありますけども、多摩地域に高い技術力を持つ中小企業や大学、研究機関がそれぞれ集積している、これを活かすというのは、都としての稼ぐ東京の意味でも強みを発揮してもらえないかと期待をしております。その多摩地域のポテンシャルを最大限に活用して、各自治体が広域的に連携しながら情報発信を行い、そしてそれが産業振興につながっていくという、いい循環ができればと考えております。

多摩地域の更なる発展というのは、例えば、このコロナで多摩地域でのサテライトオフィスなどすごく増えてきていますし、そういう意味では、市民の皆さんが働きながら育児や介護なども同時にできるとか、働き方そのものが変わってくるという意味では、コロナ、ウィズコロナ、アフターコロナでも、そういった新しい魅力につながってくるのではないかと、この辺はとても期待できる場所かと思えます。

それから、保健所についても触れて、ちょっと前後するかもしれませんが、保健所の機能ですね、最前線でもう大変活躍しているのは保健所で、逆に、負担が大きいところをどうやって人員のサポートをするのか、またできるだけ事務的な部分を委託するか、さらにはITを活用して、自宅療養の方々との健康観察などしやすくする、それから、保健所支援拠点の職員の派遣や人材派遣職員を活用する、会計年度の任用職員の採用するなど、人の部分でもバックアップをし、かつICT化を進めるというようなことをこれまでもやってまいりました。保健所の健康危機への対応力強化を図っていくことは市民にとっても安心につながっていくということから、また様々な取組によって、保健所、そしてまた多摩地域の保健の機能を高めるような、そのようなことを積み重ねていきたいと考えております。

副知事の方から若干加えさせていただきます。

○副知事 それでは、まず、財政問題に関してでございますけれども、今後コロナ関係で懸念される大きな問題として、都もそうですし、市もそうだと思いますけど、歳入の大幅減少ということがあるかと思えます。これにつきましては、こういうときこそ総合交付金をできる限り有効に活用できるように、いろいろ工夫してまいりたいと思っております。

また、減収補填債についても、適用対象税目とか、かなり仕組みもいろいろ複雑になっておりますので。

○調布市長 消費税のことだと思いますよ。

○副知事 はい、地方消費税。

○調布市長 いち早く情報を入れて、来年の体制に取り組みたいと。

○副知事 はい、都といたしましても情報収集に全力を。

○調布市長 年度内にこれをやるということだと思うんですがね。

○副知事 減収補填債の活用というのも大きな対応の一つだと思いますので、情報収集に努めてまいりたいと思えます。

また、都では総額100億円の特別交付金の交付、市町村総合交付金の6月概算交付額の引上げなど、いろんな対応をしておりますけれども、今後ともどのような財政事情になるか、ちょっとよく分からないというところもございますので、臨機応変に、できる限り

市町村財政の方を支援させていただきたいと、このように考えております。

続きまして、防災関係でございますけれども、一つは、ハード関係ということでございますけれども、お話のように水門の遠隔化とか排水ポンプの増設、そういったハードの問題がございます。

○調布市長 多摩川が氾濫しなかったのは幸いですけど、かなり増水のことでもやられましたけどもね。

○副知事 東京都におきましても建設局、下水道局など担当局で、今、去年の教訓を生かしまして様々な対策を取っておりますので、市とまたいろいろ御相談をさせていただきながら、より強力な水害対策を進めてまいりたいと思っております。

また、ソフトといいましょうか、避難所運営の関係でございますけれども、やはりウィズコロナという、こういう中であって、避難所運営の在り方も大きく変わっていくかと思えます。現在、ガイドラインの作成に都としても今、努めてるところでございますけども、例えば段ボールベッドをより増やすとか、今までなかった間仕切りですね、そういったものを確実に提供していけるようにするとか、そういったところも今、総合的に検討してるところでございます。

○調布市長 やはり、何ですか、リアルなシミュレーションをやってみるとですね、なかなか難しいですよ。

○副知事 確かに、おっしゃるように、定員といいましょうか、人数の問題が基本的なところで、今までと考え方がかなり変わってくると思えますんで……。

○調布市長 作ったにしろ、段ボールベッドもない、あれ作って、壊して、その面積どれだけ取るとかやってみれば、なかなか。

○副知事 確かに、段ボールベッドは組み立てるだけでも相当の時間もかかるし、また撤去にも大変手間がかかると、いろんなまた課題もあるというふうには伺っておりますし、またそれも解決していかなければいけない。

○調布市長 それ、もう実証実験やってるんです。さっきのサイボウズの人にも来てもらって、いろいろなことをリアルに。それやってみようとする、難しい問題いろいろある。ただ、もう災害待たないなので。

○副知事 それから、あと子供・若者の育成の問題。全くこれは、問題意識を都としても調布市さんと共有するところでございます。これまでも御案内のとおり、待機児童対策であるとか保育所職員の支援など、都としても様々な施策を展開してまいりましたけども、さらに課題もまだまだあると思えますので、都といたしましても長期計画、長期戦略の中でそれを取りまとめたいと思っておりますので、また市長に御相談させていただきながら前進させてまいりたいと思っております。

それから、最後にオリンピック・パラリンピックの問題でございます。ちょっといろいろ不安な声もありましたけれども、今、本当に関係機関、IOC、国、東京都、組織委員会、もう全力を尽くして、何としても開催するという気持ちで今、取り組んでいるところでございます。どういう形の大会にするかということが、まだ必ずしも今、検討途上でござい

ますので、費用の問題なんかもまだ今、精査中ではございますけども、今、お話があったようなコロナの対策でございますとか、それから、ライブサイトなんかにつきましても、やはり都民の方の参加、意識の向上というのは大切でございます。一方で、三密との関係とか、いろんな新たな課題も出てまいりますので、引き続き、今のような御意見も踏まえながら検討を進めてまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

○行政部長 それでは、今のこのお話を受けまして、市長の方からいかがでございますでしょうか。

○調布市長 時間どれぐらいのものでしょうか。時間は。

○行政部長 あと少々。申し訳ございません。

○調布市長 では一、二点にします。

一つは、産業データベース構想、投資誘致のための、これは是非やりたいと思っております。これ何年も前から実は仕掛けてるんです。金融機関の方とか公共交通機関、それから商工会連合会の事務局、そういうところと話し合っ。みんな総論賛成なんですけど、なかなか統一したフォーマットで一気にやれるかということと、大きくはないけど、多少のお金がかかる。是非都にも御理解いただきたいと思ってるんですけども。

さっき申し上げたように、東京に橋頭堡を築いて業容を拡大したいという企業は、常に全国にたくさんある。今、情報をその東京で取るのなら、23区だって、多摩だって何の支障もない。地価は安い、人件費は安い。さっきおっしゃったように、コロナも追い風になるかもしれない。工場を設置するほどの面積もありますしね、多摩の方には。それで、何とか来年これを作り上げたいというのは私の悲願でございます。

それから、保健所の問題。やはり、24を5つに再編されるときには随分反対したんですよ、そんなことで、特にあのときでも九十何万人だったから。ただ、平時のことはそんな、支障なかったと思いますね、特定の飲食業とか理容業の衛生監督だとか、そういうことに関してはね。ただ、この感染症の大きなことなんて想像してなかったのは当然のことなので、今後を考えるとときには、スタッフはたくさん要る。小さいところにはそうかもしれない、だけど所長は1人なんです。それから、セクションの数も大体同じで、管理職は1人なんです。そうすると、やはり無理が出てくるんですね。これまでの御貢献には大変感謝しておりますし、そのことをとやかく言うつもりはございませんが、今後の展開では、よりこの何年かに1回やってくる感染症にも万全な対応のできる保健所機能ということで、さっきのことがございましたように、よろしく願いたい、その2点にとどめます。ありがとうございます。

○行政部長 市長、どうもありがとうございました。それでは、最後に知事から願いたいします。

○知事 今日御苦労さまでございました。このコロナというのは、いろんな意味で、私は、多摩地域にもまた新たなスポットライトが当たるといふふうに考えております。ここは知恵の出しようということでありまして、ぜひとも多摩がそうやって、より発展をするいいきっかけにするべきだと考えております。

二点目の保健所でありますけど、今回東京 iCDC という機能を作りました。そこで平時と有事と分けて、いざといったときには有事で動くというような、そういう機能的なネットワークが必要だというふうに考えております。ですから、平時のときの要員と、そして有事のときの司令塔ということを考えていくのが今後の更に、どういう形で続くかは別にしましても、感染症対策や都民の健康を守るというその手段としての保健所の在り方など、それらを検証しながら進めていきたいと考えています。何よりも機能するという、そこに着目すべきだと考えています。

○調布市長 よろしく申し上げます。

○行政部長 それでは、以上で意見交換を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。